



Table Tennis Specialty Department
Saitama Junior High School Physical Culture Association

卓球はコロナに負けない

埼玉県中体連卓球専門部マガジン

部活動で強くなる

令和5年度～第2号（第10号）～



埼玉県中体連卓球専門部強化部



はじめに

専門部マガジン10号（今年度の第2号）は、自分の「思い出の場面やfavorite team」がテーマです。指導してきたチームの中で、印象に残るチームや、大切な試合などで思い出に残った一場面があったと思います。今回は卓球専門部の11人の先生方にそんなチームや場面を紹介してもらいます。「**思い出の一場面～favorite team～**」です。それではお楽しみください。

執筆者の先生方

1 小井戸健太

加須市立騎西中学校顧問

2 津田美奈子

春日部市立豊野中学校顧問

3 芳賀 貴裕

越谷市立富士中学校顧問

4 初手 航

狭山市立中央中学校顧問

5 河野 俊介

東松山市立北中学校顧問

6 小西 大気

伊奈町立小針中学校顧問

7 石井 浩恭

元富士見市立勝瀬中学校顧問

8 野村 桃太

所沢市立安松中学校顧問

9 田口 直樹

春日部市立東中学校顧問

10 桑名 和広

さいたま市立豊平中学校顧問

11 藤原 麻衣

元川口市立南中学校顧問

① 全員守備型選手で県大会ベスト4【平成30年度新人兼県民総合スポーツ大会】

私の「favorite team」は、**平成30年度の新人兼県民総合体育スポーツ大会**でのチームになります。

まず私が言うのも変な話ですが、私のチームは毎年守備型の選手が多いのが特徴で県内外でも有名な方です。そんな毎年、守備型なチームの中で特に守備的だったのが、この「平成30年度の男子チーム」になります。「**守備型**」をおそらくイメージされている方は、6人のレギュラーのうち、攻撃選手が2人ぐらいで、そこにカットマン1人、ペン粒高2人、シェークバック粒高（異質型）1人ぐらいではないでしょうか。攻撃選手が2人では、まさに守備的なチームといって過言ではないですね。特に男子では攻撃選手をやりたい傾向があるので、このチーム構成はまさに守備的です。

では本題に戻りましょう。この平成30年度のチームがいったいどれくらい守備的だったか、みなさんに紹介します。知りたくなってきましたね。では1番手から5番手まで基本オーダーで順番にお伝えしていきます！！

1番…ペン粒、2番…ペン粒、3番ダブルス…ペン粒とペン粒、4番…ペン粒、5番…ペン粒……すべてペン粒？！
そうなのです。全員ペン粒のチームでした。おそらくこんなチーム過去にも未来にも無いのではないのでしょうか。「ふざけている！」と思っている、この記事を読んでいただいているみなさん馬鹿にしてもらっては困ります。このチームは新人県大会において3位入賞を果たしています。そう、県内で男子団体ベスト4なのです。そして、この後に開催された関東選抜大会にも出場する権利が得られたので出場しています。そこでも猛威をふるっていました。ペン粒軍団……。

一見、ふざけているように見えますが、**生徒たちの特性を踏まえた上で、戦型選択**をしております。この代は、たまたまペン粒の特性が高い生徒が多く集まった代だったのだと思います。また、この生徒たちの、この後がどうなったか気になったと思いますので紹介します。このペン粒チームのエースだった生徒は、高校に進学してさらに成長し、インターハイや、全日本ジュニアなどにも出場し、埼玉県の代表となって活躍しました。この生徒たちの活躍を見て、指導している自分自身も、**守備型チームにも無限の可能性**があるのだと改めて感じさせられた…そんな瞬間だったと思います。



守備型チームといえど、しっかり指導すれば、強豪校とも十分戦えるはず！ そんなことを証明できたチームであった。

加須市立騎西中学校男女卓球部顧問
小井戸 健太

② 未経験指導者と卓球に狂信的にのめり込んだ生徒の念願の地区優勝【令和5年度学校総合体育大会】

私の「favorite team」は、卓球部顧問としてもらったチーム全てですが、特に**令和5年度の学校総合体育大会で市内優勝したチーム**になります。

私は卓球部顧問を数年やっていますが、本当に情けなくお恥ずかしい話、卓球未経験、いまだに回転やラバーの特性が分からない、完全「部活がやりたいだけの顧問」です。今まで指導した生徒は実技指導ができないことが本当に申し訳ないくらい、卓球が好きな生徒ばかりでしたが、そんな中で自分が驚くほど、卓球愛を拗らせたチームが、令和4年度の新人戦では県大会出場ギリギリでしたが、令和5年度の学校総合体育大会では長年市内一強状態であった学校に競り勝ち、見事市内優勝を勝ち取ったチームになります。このチームははっきり言って、決して強そうには見えません。ただ、**部活をやっている時は卓球に向き合い、顧問ができない実技指導は自分たちでカバーしてくれたチーム**でもありました。そんな卓球好きな豊野中のちょっと可笑しな生徒は、ラバーの硬さを当てるゲームに興じていたり、教室での練習中、隙あらば卓球用品カタログを眺めるだけでは飽き足らず、朝読書用として見ようとして担任に本気で止められたり、廃棄ラバーの切れ端や、外装を(自分以外の人の方まで貰って)保管し、顧問がごみなのでは？と言ったら激怒したり、卓球は体力が必要と言い、夏休みは部活動後のプールトレーニング、冬には陸上部やサッカー部の練習に参加し、その後の卓球もみっちりやる位の体力がついたはずなのに、体型がまったく変わらない生徒がいたり、強い選手のラバーや、サーブについて、顧問に熱弁する生徒がいたり、練習試合などで県上位のチームやエース選手と試合を行い、大敗することに悔しきよりも喜びを感じていたり、練習の合間に休憩時間を設定しても、休憩しないですっと仲間と打っていたり、定期試験期間ではない限りはちょっとした時間でも練習が行えるように、顧問に休み無しや、朝練習の実施をお願いしてきたりと、決して強いわけではなく、本当に卓球が好きな生徒の集合体でした。

そんなチームが、顧問の未熟な指導や様々な無理難題にもめげず、自分たちの可能性を信じて、自分のやってきたことを信じて地区優勝を果たしました。**好きこそものの上手なれ…**彼らの全ての原動力はそこにあり、私は色々な先生方のご指導やご協力をうけると共に、顧問として卓球の指導ができない代わりに場所と時間を与えたにすぎません。そこに一緒に歩んでくれたチームの優勝は、いままで一緒に歩いてきてくれた卒業生の礎があったからこそできたものであり、そんな感謝も含め、彼らの優勝は膝から泣き崩れるほどの喜びでした。

そんなチームが、顧問の未熟な指導や様々な無理難題にもめげず、自分たちの可能性を信じて、自分のやってきたことを信じて地区優勝を果たしました。**好きこそものの上手なれ…**彼らの全ての原動力はそこにあり、私は色々な先生方のご指導やご協力をうけると共に、顧問として卓球の指導ができない代わりに場所と時間を与えたにすぎません。そこに一緒に歩んでくれたチームの優勝は、いままで一緒に歩いてきてくれた卒業生の礎があったからこそできたものであり、そんな感謝も含め、彼らの優勝は膝から泣き崩れるほどの喜びでした。



技術指導があまりできなくても、選手を強くする最大の秘訣は“卓球を好きにさせること”このことに尽きることを示してくれている。



春日部市立豊野中学校男子卓球部顧問
津田 美奈子

③ 地区予選で団体・個人シングルス・ダブルスの3部門すべてにおいて優勝【令和元年度新人兼県民総合スポーツ大会】

今まで関わってきたどのチームにも深い思い出がありますが、中でもとりわけ印象深いチームを紹介します。**令和元年度の新人兼県民総合スポーツ大会の女子チーム**です。当時私が勤務していた吉川中央中は、男女合同で活動していましたが、毎年女子の部員が少ない状況にありました。着任した1年目の新入部員はわずか1名、2・3年目は5名ずつと、1つの学年で団体の組める人数がなかなか揃わず、団体での県大会出場もあと一歩のところまで逃すという年が続き、悔しい思いを子どもたちと数多く味わいました。

そして4年目。遂に7名の女子が入部してくれました。この代は当時私の所属学年でもあり、担任したクラスでは男女合わせて10名もの生徒が卓球部の仲間入りをしてくれたことは、今でもとても印象深いです。全員が初心者のチームでしたが、今度こそ女子団体での県大会出場を目指し、左裏裏攻撃、右裏裏攻撃、右裏粒攻撃、右裏表攻撃、右裏粒カット、右ペン粒と、それぞれの生徒の適性を踏まえながら戦型を多彩にし、「**どんな選手にも対応できるチームにしよう**」と練習に励みました。ほぼ1つの戦型につき1人、というチーム形態は私自身初めてでしたが、1人ひとりが自分の役割を果たそうと努力していて、練習内容がとても充実していたように思います。実戦経験を積むため、市外や

県外の遠征にもたくさん出させていただきました。

2年生に進級して、新人戦の前哨戦と位置づけられる東部地区大会では、惜しくもベスト4入りをするにはできませんでしたが、その後の地区予選で団体・個人シングルス・ダブルスの3部門すべてにおいて優勝することができました。念願の女子団体初の県大会出場です。県大会では、東部地区ベスト4の越谷富士中と対戦。5番手まで接戦が続きましたが3-2で勝利し、ベスト16まで勝ち上がることができました。

その後、3年夏の学総では団体県ベスト8以上を目標に、努力を続けて

令和元年度 新人兼県民総合スポーツ大会 女子団体戦



いきました。しかし、2年生の終わりであった令和2年3月、感染症の影響で休校となりました。さらに、私自身も3月末で異動になってしまいました。この子どもたちは直接お別れを言うことすらできず、学総も中止に……。この子どもたちが夏の大会でどんな活躍をしていただろうかと考えると、今でも本当に残念です。それでもあの2年間、選手・顧問ともに「**女子団体で初の県大会へ!**」という強い思いを共有して前向きに努力し、成果を上げられたことは、私にとってかけがえのない思い出です。いつかのメンバーに会って、この2年間の思い出話をしたり、2年間関わってくれたことへの感謝の気持ちを直接伝えたいと思います。

そして…令和2年4月の異動先はなんと、県新人で対戦した越谷富士中でした。ライバルだった学校に異動というのも本当に不思議な縁ですね。これからも、吉川中央中女子チームをはじめ、これまで関わってきたチームでの経験を大切にしながら、現役の選手たちと目標達成に向けて強い思いを持って頑張っていきます!

越谷市立富士中学校男女卓球部顧問
芳賀 貴裕

④ 中学スタートからの奇跡～関東大会ベスト8～【令和3年度学校総合体育大会】

私が指導してきた中で、最も印象に残っているチームは、**令和3年度の学校総合体育大会でのチーム**になります。その次の代では、全国中学選抜卓球大会選考会にて優勝し、全国選抜に出場することができましたが、その土台を作ったのは紛れもなくその上にいた選手たちだと思っています。私は、チームを作るうえで「**応援されるチーム**」になることを最も大切にしています。それを教えてくれた8人が、県で勝ち上がり、関東大会ベスト8まで勝ち進んだ…その奇跡について紹介します。

そのチームは私が指導歴3年目の時に入部した選手たちでした。今までのチームは県大会に出場したり出来なかったりを繰り返すようなチームでした。ただ、その子どもたちが入部した当時は、新人戦で県16まで勝ち進んだチームであったため、少し指導力がついたつもりになっていました。結果、直後の学総体では、市内ベスト8で負け、県大会に出場できずに終わりました。どれだけ練習をしたとしても、自分が大学まで卓球をやってきたとしても、自分がやるのと教えるのでは別物であることを痛感するきっかけになりました。自分がやってきたことをやるだけではだめだ、もっと自分が0から卓球を学ぶ必要があると思い、試行錯誤しながら育てた選手たち…。この2年半があったからこそ、今の自分がいるのだと思っています。

当時のメンバーは、左の裏裏2人、右の裏裏1人、バック表1人、ペン粒2人、カットマン2人の8人でした。やる気に満ち溢れており、部活が休みの日にも、遊びに行くような流れで、どこかの体育館で卓球をやるような子どもたちでした。そんな子どもたちだからこそもっと力になりたいと思い、まず初めに子どもたちと交換ノートを始めることにしました。自分のことを振り返り、わからないことがあったらノートに書く。練習中にも声をかけ、**自分が何をしたいのか、何をすべきなのかを、積極的に子どもたちと会話をする**ようにしました。そうやっていくうちに、私自身が曖昧になっているところに気づくことができました。それをはっきりするために、地域のクラブや高校、大学生、社会人に声をかけてお邪魔して、学ぶ機会を増やしました。

すると、生徒たちの練習の質は少しずつ変わり始めました。統一したメニューの中にも、それぞれが目指す形に合わせて、アレンジができるようになったのだと思います。近辺の高校やクラブ、学生や社会人の方には、本当に何度も何度も相手をしていただきました。なぜここまで力を貸していただけるのかを尋ねてみたとき、「全体がテキパキ動かし、わからないことがあれば、すぐに聞くことができる。そのうえで、しっかりと考えて取り入れようとするから、相手をして楽しいチームだからかなあ。」といった言葉をいただきました。チームの姿勢が周りを味方に変えていく…その積み重ねが、全体のレベルを上げるための要因だと気づくきっかけになりました。選手たちとは、**対話をしながら練習**することが多いです。

自分が学んだこと・できることをみんなで共有していく中で、チーム全体が活気溢れるようになりました。仲が良いというよりも高めあえる仲間として、切磋琢磨してきたからこそ、団体戦では互いを全力で応援しあえるチームになったのだと思います。自分も選手も考え、修正し、取り組んできた2年半。新人戦で勝てなかったチームにリベンジを果たし、準々決勝では、県大会で初めてレギュラーになったペン粒が大金星を挙げ、初めて関東大会に出場することができました。関東大会においても、団体メンバー8人の組み合わせを考えながら、予選リーグで2勝をあげ、1位通過で決勝トーナメントまで勝ち進むこともできました。その8人がいたからこそ、後輩に目指す道を示してくれたのだと思っています。



現在のチームにおいても、仲間や家族だけでなく、地域や他校にも「**応援されるチーム**」になることが大切だと選手たちには日々伝えています。私の指導の土台を作ってくれた選手たち、あの子どもたちが見てきた光景を今のチームにも見せられるように今後も頑張りたいと思います。最後まで見ていただいた方、ぜひどこかの機会に力を貸していただけると幸いです!ありがとうございました。

誰からも「**応援されるチーム**」を目指すことが筆者の指導の原動力になっている。

狭山市立中央中学校男子卓球部顧問
初手 航

⑤ 模範となるチームに ～初めての関東選抜大会出場～【令和4年度新人兼県民総合スポーツ大会】

今回、印象に残るチームのことを書いてほしいと言われました。今まで卓球部の顧問をしてきてどのチームにも印象に残る場面があり、1番というのは難しいなと感じました。ですが、強いて挙げるならばやはり、**初めて関東選抜大会に出場できた令和4年度新人兼県民総合スポーツ大会でのチーム**です。

私は今まで県大会でベスト32以上に入れたことがありませんでした。今年のチームは強くなったと思っても、2回戦で負けてしまったり、コロナで大会が中止になってしまったりとなかなか目立った成績を残すことができませんでした。自分の指導が良くないのだと思い、強い学校の先生に指導方法を教わったり、動画で研究したりと試行錯誤を繰り返しました。そして令和4年度の新人戦でベスト8に入り、関東選抜にも出場することが叶いました。



筆者は、多くのチームの模範になるようなチーム作りを毎年目指している。このチームはそれを見事に体現していた。

このチームは「**とにかく粘る**」をモットーに練習をしました。なかなか徹底しきれない部分もありましたが、部長であるカットマンの選手が一番それを体現してくれていたと感じています。特に関東選抜を決めた試合での大量ビハインドからの大逆転は忘れられない試合です。また、元々ダブルスが弱点と言われていたチームでしたが、最後の学総の県大会では粘り、声を出し、1試合以外全て粘り勝つことができました。残念ながら関東大会にはあと1勝足らず届きませんでしたが、負けていて諦めそうな場面でも決して諦めずプレーする選手の姿から私自身見習わないといけないなと感じました。またチームとして常に「**模範となるチームを目指そう**」と話してきました。彼らは、負けて関東大会に出られないと決まった後でも片付けや最後のモップ掛けを手を抜かずに行ってくれました。「**一緒に頑張ってきてよかった。**」そう思わせてくれるチームでした。

東松山市立北中学校男子卓球部顧問
河野 俊介

⑥ 卓球愛で勝ち取った初の県大会出場！【令和3年度学校総合体育大会】

私が印象に残っている**令和3年度の男子チーム**は、卓球がとにかく大好きという気持ちを持った**“卓球愛に満ち溢れたチーム”**でした。彼らの掲げた目標は、「**県大会で勝つ！！**」

新人戦は残念ながら決勝リーグ敗退してしまいましたが、その悔しさをバネに次の学校総合体育大会に向けて、とにかく猛練習を行いました。

そんな中、翌年の4月、縁があって飛び入りで彼らの学年を担当することとなりました。それまでも部活動以外で授業での関わりはありましたが、学年の職員として関わるのは初めてです。彼らと過ごす時間はより一層多くなり、充実した1年間だったと記憶しています。

私の自己満足になってしましますが、彼らとのエピソードを少しだけ紹介させてください。

- (1) 休み時間は廊下に集まって卓球トーク(もちろん顧問の私も交じって)
- (2) 休み時間中、ずっとラケットケースを抱いて過ごす。
- (3) 生徒会の意見箱に「なぜテスト期間中、部活をやってはいけないのか！やらせてほしい！！」という熱烈な意見を入れる。
- (4) ラバー性能表を自分たちで作る。
- (5) 休憩時間は卓球王国を熟読。
- (6) 発明創意くふう展でボール拾いを楽にする発明品を作ってくる。

(顧問の担当教科が技術)

まだまだたくさんありますが…部活動内外でも卓球愛に満ち溢れたチームでした。

学校総合体育大会では努力が実り、地区予選を通過し、県大会出場を決めることができました。(団体戦県大会出場は創部以来初といわれています)

また、コロナ禍で制約が多かった中、埼玉県卓球協会主催の神巧也選手による「卓球・夢授業」に全員で参加しました。汗だくになりながら、スポーツ総合センターに歩いていった道中も思い出の1つです。

私は、「**卓球が好き!**」という思いを選手に抱かせることが、選手自身やチームを強くするための最短経路なのではないかと思っています。これからも彼らのような卓球愛に満ち溢れた選手を育てることができる“卓球愛に満ち溢れた指導者でありたい”と思います。

伊奈町立小針中学校女子卓球部顧問
小西 大気



みんなの力で県大会出場を勝ち取った!

⑦ 感謝の心で全中優秀13校に入賞！【平成9年度学校総合体育大会】

今年の3月で60歳の定年となり38年間の教員生活を終えました。新任から最初の2年間はバドミントン部の顧問でしたので、卓球部の顧問は36年間でした。この4月からは引き続き勝瀬中学校の外部指導者として卓球部に関わっています。今までの36年間を振り返ってみると、さまざまな思いが蘇ってきます。常に新チームをスタートさせるときには、このチームが今まで一番のチームだと思って取り組んできましたが、指導力不足のため、なかなか上達しなかったり、意思疎通がうまくとれなかったりなどさまざまな場面でうまくいかなかったことがいくつか思い出されます。生徒の思いを実現させてあげることができなかった代には申し訳なかったと思っています。毎回、引退するときには卓球部に入部して良かったという思いで引退してほしいと思ってきましたが、果たしてこの36年間でどのくらいの生徒がそのような思いで引退していったか…。

生徒には団体として県大会で上位を目指し、関東大会に出場するという目標を持って取り組んでほしいと思い、その目標であれば、いかにそこに向かわせるかが顧問の役割だと思ってきました。また、団体のメンバーになれなかった生徒には何でもよいので常に目標を持って取り組み、その過程でさまざまな力が身につくということをおぼえてほしいとも思っていました。そのような中で、団体で関東大会に出場し、目標を達成した代はいくつか

ありますが、今までで1番強かったと思われる代は富士見市立本郷中学校の時の「平成9年度のチーム」です。前年度の東京での関東大会に出場して負けたとき、全国に出場を決めたチームを見て、来年は絶対全国に出場するという思いが湧いてきたのを覚えています。生徒とその思いを共有し、そこからの1年は全国を目指す1年間でした。新チームが始動し、夏の終わりの神奈川近隣大会優勝、年末の神奈川白鵬高校大会優勝、1月の足利オープン優勝、5月の東部会長杯優勝など、ほとんど負けたことがないチームでした。県内はもちろん、県外のチームにもたくさん声をかけていただき、試合をさせていただいたこと、たくさんの先生方にお世話になったことに感謝しかありません。お陰様で「平成9年度全国中学校卓球大会(高知大会)」予選リーグを勝ち抜き、優秀13校となることができました。聞いてはいませんが、きっとその時の生徒は卓球部に入部して良かったという思いで引退していったと思います。



筆者は36年間の教員生活で18度、団体で関東大会に導いている。それは毎年、生徒は違えど卓球部に入部してよかったと思わせられる筆者の指導力の賜物である。

元富士見市立勝瀬中学校男子卓球部顧問
石井 浩恭

⑧ 指導した最初のチームで見事県大会出場【令和5年度学校総合体育大会】

私の「favorite team」は、令和5年度学校総合体育大会でのチームです。

理由は簡単で、私が指導をした最初のチームだからです。私自身、中学生の時の3年間卓球部に所属しており、教師を目指す理由の一つにも「部活動で成長したことを伝えていきたい」というものがあります。毎日毎日練習をし、土日は練習試合や大会など、恩師はとにかく色々な地に連れて行ってくれたことを覚えています。そんな学生時代の思い出や経験から得た学びを今度は次世代に残していきたいと思い臨んだ大会が令和5年度学校総合体育大会です。この大会に臨んだチームは最初から全員がやる気に満ち溢れていたという訳ではなかったように思います。「ただ部活動で卓球部があっただけ」でそこに「信念」や「欲望」はありませんでした。



筆者は、「いかに生徒たちに様々な経験を積む機会を与えられるかが重要」と語っている。経験を積んだ生徒たちが活躍することでチームの勝利が近づいてくるはずである。

初めて指導者になり「これが現実か…」と先があまり見通せないと思ってしまったのも事実です。いかにしてこのチームを県大会でも通用するレベルまで押し上げるか。いかにしてこの子たちに「成長」をもたらすか。

色々悩んだ結果、指導者は経験を積む機会を与え続けることが大切なのではないかと考えました。本当に不思議なことに子どもたちは、その与えた機会を自分たちで活用し、自分たちで学び、自分たちで強くなっていきました。驚くことに次第に意欲や足並みも揃って「勝ちたい」と言うようになっていきました。勝負以前にそのことが嬉しかったことを覚えています。

結果としては地区大会優勝。県大会では一回勝つことができました。県大会上位のチームのレベルは高かったのですが、それでも私としては初めてのチームでよく頑張ってくれたなど感謝をしています。

今後数多くのチームを見ていくことになると思いますが、このチームで得た経験はきっと自分の指導の原点になっていくと思っています。生涯忘れることのない大切なチームです。そしていつかは自分を成長させてくれた恩師を超える立派なチームを作りたいです。

所沢市立安松中学校男子卓球部顧問
野村 桃太

⑨ 印象に残るチーム ～初任校での県大会出場～【平成22年度新人兼県民総合体育大会】

私の経験の中の思い出の一場面と私の「favorite team」について紹介したいと思います。

これまで指導してきた経験の中で、色々と印象に残っている場面がありますが、**初任校で県大会に出場した時のこと**について紹介します。初任者として着任した学校では、個人で県大会に出場できた選手がいたものの、団体では、地区予選会を勝ち抜いて、県大会に出場することがなかなかできませんでした。「どうしたら地区予選会で優勝して県大会出場できるのか？」をずっと考えて、生徒と部活動に取り組んでいました。そして県大会出場を目指し、挑んだ新人戦の地区予選会…。今まで地区予選会であまり勝ったことがない選手たちが、試合を勝ち進む中で、自信を持ち始めたのです。予選を通過し、決勝リーグを前に集合して、部長が号令をかけたとき、選手たちは「お願いしますっ！」と、今まで聞いたことがない自信に満ち溢れた声で挨拶をしてくれたのです。その姿、行動から選手たちの成長を感じられ、とても嬉しい気持ちになりました。その後、決勝リーグも全勝して、そのチームは見事、県大会出場を決めることができました。選手たちと嬉しさを分かち合えたこと、体育館のステージに上がり、先生方と握手を交わしたことは強く印象に残っています。

次に、私の「favorite team」についてです。これまで率いてきたチームで印象に残っているチームは、「**①保護者に信頼してもらえたチーム**」、「**②部員同士の仲が良いチーム**」、「**③多くの人たちに応援されたチーム**」です。

まず、「**①保護者に信頼してもらえたチーム**」ですが、ある代の、ある保護者は「私たちは何があっても、先生を信じてやっていこう」と保護者同士に呼びかけ、部活動の応援をしてくれました。保護者同士に呼びかけてくださったことなどは、後になってから知ったことでしたが、私自身、とても部活動運営がやりやすく、大会への応援にもたくさん来てくださり、生徒も最後の学総県大会では大いに活躍することができました。呼びかけてくださった保護者の方、信じてくれた保護者の方には深く感謝していますが、同時に保護者の存在の大きさを学んだ出来事でもありました。

次に、「**②部員同士の仲が良いチーム**」です。自分が「このチームは、いいチームだな…」と感じるチームの共通点の1つとして、「部員同士の仲が良いチーム」があります。ある年のチームは、自分が異動して1年と数カ月しか指導をすることができなかったチームでしたが、部員同士の仲が良く、とても印象がよいチームでした。「もっと長く携わっていたかった」と感じるチームでした。仲間同士の人間関係の大切さを学んだチームでした。

最後に「**③多くの人たちに応援されたチーム**」です。このチームは、他の学校の多くの先生方や保護者の方々、卒業生などから応援され、関東大会にも出場することができました。これほどまでに多くの人たちから応援されるチームは経験したことがありませんでした。きっと、このチームが一生懸命に卓球に向き合い、努力を重ねてきたことが周りの人たちに伝わったのからだと思います。応援をしてくれる人の存在の大きさを感じたチームでした。大会では、保護者がおそろいのシャツを着て応援をしてくれたり、関東大会ではレギュラーとして出ていない保護者までもが全員、会場にかけつけて応援してくれたりしました。



【印象に残っているチーム】は？ という問いに筆者は
多くの人たちに応援されるチーム だと言っている。
(保護者、卒業生、他の学校の先生方などから)

春日部市立東中学校男子卓球部顧問
田口 直樹

⑩ 卓球部顧問再スタートからの1年2ヶ月でつかんだ県大会【令和4年度学校総合体育大会】

さいたま市立大成中学校に勤務していた2018年3月中旬に、校長室に呼ばれ、次の勤務校がさいたま市立宮前中学校であることを告げられました。宮前中は卓球部がない学校であり、卓球部のない学校はさいたま市にわずか3校しかないという不運でした。ここで数年間は卓球部の顧問になることは断念せざるを得ませんでした。それから3年間、苦しい日々が続きました。1年目は水泳部の引率顧問、2年目、3年目は女子テニス部の副顧問でした。私は卓球を教えたいがために教員を目指した人間なので、今から振り返ると、時間が止まっていたような感覚です。県の役員として県大会やカデットのお手伝いに行った時は、卓球部の顧問の先生がうらやましくてたまりませんでした。

3年後、2021年3月に、さいたま市立泰平中学校への転勤が決まりました。ちょうど、今までの卓球部顧問が男女ともに転勤で、泰平中男女卓球部の顧問となりました。3月の終わりにこっそり泰平中の卓球場に下見に行った時は、数名の卓球部らしい生徒が活動しているのを確認しました。そのまま乗り込んで卓球の指導をしたいという衝動に駆られましたが、必死に我慢しました。4月になり、改めて卓球場に行った時は、たるんだネットで、特に練習メニューもなく、だらだらと練習していました。「県大会に行くにはあと3年以上はかかるかな」という思いでした。女子は3年8人、2年4人、新入生1年6人という少人数の部活でした。まずは、2年生4人のバック面のラバーを粒高ラバーまたはアンチラバーに替えました。当然1年生も経験者以外は、全員バックを異質ラバーにしました。武道場で卓球台が10台しか出せないの、男子と女子で1日おきの練習です。コロナの影響もあり、練習試合もほとんどやることがないという状況でした。3年生が引退し、2年生の代になりました。1年生で卓球経験者が1人、運動能力の高い1年生が1人いたので、2年生4人、1年生2人で団体戦を組みました。毎週のように練習試合を行い、**月に1回講師を招いての講習会**を実施しました。ペン粒高の小島選手、カットマンで全日本5位の朝田選手、元糸島自



卒業式で指導した生徒からもらった感謝の金メダル！

然塾でホープス団体優勝者の楠原選手、タクエツ卓球の張コーチ等、さまざまな戦型の選手から指導を受けることができました。今はインターネットで簡単に連絡がとれて、指導を依頼できるので、いい時代です。コロナで活動が制限された期間もありましたが、1年生の時に卓球場でおしゃべりばかりしていた4人の2年生は、伸び代があり、どんどん強くなっていきました。また、**進路学習も兼ねて高校にも練習試合に行きました**。星野高校、上尾高校、市立川口高校では、卓球部のことだけでなく、高校生活についてもいろいろ説明していただき、生徒にとってはとてもよい刺激となりました。新人戦はなくなってしまいましたが、市の冬季大会では第3シードの植水中や破り、ベスト16となりシード権獲得、最後の学校総合体育大会では、**さいたま市3位となり念願の県大会に出る**ことができました。1年生の時にほとんど技術指導を受けていなかった生徒が、**たった1年2ヶ月でよくここまで来た**と思います。生徒以上に私が驚いています。その後、軌道に乗り、新チームも新人、学総ともに県大会に出場しています。次の代のチームも2年生が4人と少なく、かなり厳しいですが、諦めずに県大会をねらっていきます。

さいたま市立泰平中学校男女卓球部顧問
桑名 和広

⑪ 思い出の試合～涙の関東大会出場～【平成29年度学校総合体育大会】

私が一番印象に残っている試合は**平成29年度学校総合体育大会でのカットマンのSくんの試合**です。

当時和光二中で教員3年目を迎え、「**関東大会出場**」を目標に男子卓球部を見ていました。週末は練習試合や大会、1日練習に励んだり、平日もクラブで夜練習をしたりと然るべき努力を積み重ねました。まだ実績のない私でしたが、子どもたちは信じてついてきてくれていました。また、保護者の方も週末の遠方への遠征で車を出して下さったり、大会では応援に来て下さったりと、とても協力してくださっていました。だから、何としてでもこの子達を関東大会という大舞台に連れていきたい、という強い思いが私にはありました。とにかくがむしゃらで、必死でした。そのときの生徒の中にSくんという生徒がいました。彼はお世辞にもセンスがあるとは言えない、不器用な選手でした。でも、人一倍真面目で一生懸命に努力ができる子で、見ていると応援したくなる選手でした。そんなSくんの学校総合体育大会で**関東大会出場をかけた北川辺中戦での一戦が私は一番思い出に残っています**。

学校総合体育大会当日、初戦、2回戦とチームは勝ち上がりましたが、Sくんはどちらもセットオールで落としてしまいました。他の生徒が勝つ中、Sくんだけは2試合とも負けてしまい、2試合目に負けたあとは、とうとう**その場で泣き崩れてしまいました**。Sくんのそれまでの努力を知っていたので私はとてもいたたまれない思いでいっぱいになりながら、なんとかSくんを慰め、励まして気持ちの切り替えを促しました。そして迎えた関東大会決定の一番。相手は北川辺中学校でした。Sくんが当たった相手はそれまで一度も勝ったことのないカットマンでした。試合の状況的にSくんの勝敗がチームの勝敗を決める大事な一戦でした。カットマン同士の対決でとても長い試合でした。とってとられてを繰り返してセットオールとなり迎えた5セット目。試合は6―9で負けていました。私は、それまでのSくんの努力を思い浮かべ、やってきて良かったと思う瞬間を絶対に迎えてほしい、努力の先には感動があるということを実感してほしい、なんとしてでも勝ってほしい、そんな祈る思いで試合を見ていました。6―9。そこから奇跡の大逆転がおきました。あっという間に9―9になり10―9。最後は浮いてきた球をバック強打で打ち抜きました。Sくんのこれまでの努力や関東大会出場への強い思いがすべてこもったかのような一球でした。Sくんの魂のこもった一球により**関東大会出場が決まった瞬間は感動で鳥肌が立つと同時に喜びの涙が流れました**。自分が泣いてしまって周りのみんながどんな状況だったのかはわかりません(笑)でも一生忘れることのない瞬間でした。誰よりもひたむきに努力してきたSくんが、苦しんで苦しんで…でも自分に負けずに立ち向かい、やっと手にした勝利が関東大会を決めたということが私は何よりもうれしかったです。そして、そのままの勢いで決勝へと進出し、日進中に敗れはしましたが、大満足の準優勝。関東大会での子ども達のうれしそうな、誇らしげな表情は今でも忘れられません。

Sくんの代は幸運なことに関東大会へと進み、努力した先の感動に出会うことができましたが、同じように一生懸命努力してもその努力が実らず最後に悔し涙で終わった代もたくさん見てきました。その子ども達の悔しい顔も私にとっては忘れることのできない思い出です。**努力したからといって必ず結果につながる訳ではありません**。むしろ悔しい結果に終わることの方が多いと思います。でも努力していないとチャンスがきたときに絶対にそのチャンスをつかむことはできないと思います。また、努力したからこそ出会える感動や思いがあると思います。**頑張ってきたから悔しいし、辛い。頑張ってきたからうれしい感動する**。一度きりの人生だからせつかくなら感動がたくさんあった方が良く思います。仲間と一つの目標に向かって努力した日々はきっと大人になってからも掛けがえのない宝物になると思います。私は自分の好きなことに夢中になって生徒と感動体験を共にできるこの毎日に感謝して、これからもたくさんの感動に出会うべく頑張っていきたいです。



元川口市立南中学校女子卓球部顧問
藤原 麻衣

今回の第10号（今年度は2号）はいかがだったでしょうか？

専門部の先生方もそれぞれが様々な目標を持って3年間近く部活動指導を行ってきた中で多くの印象に残った試合や世代があることがわかりましたね。その中には、いざ関東大会出場など上位大会への出場がかかる大事な試合で今まで練習してきたことをすべて出し切って得た勝利や、ずっと入部の時から近い距離で指導してきた中でとても幼かった生徒たちが大きく成長して、地区大会で顧問に初優勝をプレゼントしてくれたり（顧問が号泣）、指導者が若く、技術指導にまだ自信がない時代に選手たちがそのマイナス部分を補って頑張り、目標だった県大会出場に導いてくれたりなど、執筆していただいた**先生方、それぞれに感動の素晴らしいドラマ**があったと思います。このマガジンを読んで頂いている読者のみなさんにも、おそらく**忘れられない心に残る試合や、思い入れの強い印象に残る世代があった**と思います。ただ最後に、成功体験の記事が多いですが、藤原先生が書いたように、**努力したからといって必ず結果につながる訳ではありません。むしろ悔しい結果に終わることの方が多いいと思います。ただ大事なのは努力していないとチャンスがきたときに絶対にそのチャンスをつかむことはできないということです。**ぜひみなさんも、今まで出会った選手たちとの思い出を大切にしつつ、一番はこれから出会うであろう生徒たちと、以前の生徒たちを超える最高のエピソードを作り上げてください。それでは、次回も楽しみにしてください。ではまた次号でお会いしましょう！



Table tennis specialty department
Saitama Junior High School Physical Culture Association

卓球でしか叶わない“夢”がある。

だから、いま卓球をしよう。

卓球はコロナに負けない

埼玉県中体連卓球専門部のサイトに専門部で作成したキャッチコピーがあるので、可能な方は印刷して卓球場に掲示をお願いします。



埼玉県中体連卓球専門部

速報

令和6年2月23日(金・祝)に東松山市立北中学校にて「令和5年度埼玉県中学校卓球研究協議会」

が行われます（詳しくは同卓球専門部ホームページに up されている別紙参照）。

この取組の主旨は、今まで多くの先生方が部活指導において、指導書がなく、どうやって生徒たちに卓球の指導を行ったら良いのか長年、疑問に思われてきたと思います。**最初に何を教えるのか、いつ頃に何をやったらいいのか、様々な戦型がある中でどう指導すれば勝てるのか、指導するポイントは何か、そもそも部活動運営ってどうやったら良いのか**…たくさんの疑問があると思います。そこで昨年度より埼玉県では、先生方のそれらの疑問を解決に導くべく、教科や領域の研究協議会に習い、部活動の卓球競技でも全県規模の研究協議会を実施したところ大変好評でした。そこで今年度も同協議会を実施する運びとなりました。昨年度に引き続き、**分科会(今回は参加者が目標レベルに合わせて選ぶ)**と**全体会(指導者講習会)**を予定しております。なお全体会には**埼玉県が誇る名将の石井浩恭先生に講師**をお願いしてあります。

また、今研究協議会は**卓球指導初心者の先生～県大会の上位や関東大会を目指す先生方まで幅広く、すべての先生方が対象**となっております。今回も多くの先生方のご参加をお待ちしております。

※もし関東各都県で希望される先生方は、埼玉県中体連卓球専門部騎西中学校 小井戸までお問合せください。

研究主題「**目標レベルごとによる指導法**」

中学から始めて勝つチームを作る手立て

目標レベルは4段階に設定！ ①は2分科会で、**全5分科会**を予定！

- ①地区大会や市大会で少しでも多く勝たせる指導法
- ②県大会に出場させるための指導法
- ③県大会で1回でも2回でも勝たせる指導法
- ④県大会で上位に進出する（関東大会に出場する）指導法

昨年度実績！

★昨年度参加者37人参加
★指導者・補助役員14人参加
合計51人参加！